

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！ フラジル通信 No.12 2018.11.1 学校教育課 鳥山徳子

フラジルは今、Primavera(春)です。 o verão(夏) Cair(秋) O inverno(冬)

⑦ 10月19日(金) SANTOS DUMONT 学校訪問(全日) ⇔ 二川小学校



SUPERVISOR の経験を生かして、教室を巡回して、ノートを見たりスタンプを押したりしています。そのおかげで、子どもがよく覚えるようになりました。また、いじめはいけないことを教室で話すこともあります。家庭も協力的で、地域に住む子どもばかりなので、信頼関係もあります。自分のことがみんな好きなので、多くの保護者が来校します。この学校は、来たときに来ることができ、授業もいつでも参観できるようにしています。

アンドレイア校長
(6年目:写真右)
・児童数 240人
(特別支援 11人)
・学級数 9学級
・教員数 17人
(午後は大学生)
・IDEB 7.3

★歓迎の掲示をしたり、日本とブラジルの旗を作って出迎えたりしてくれました。二川小学校にこの学校の作品が掲示されている写真を見て、とても喜んでいました。

★「何もかも無償でもらっているブラジルの子どもはとても恵まれているということを子どもたちに伝えてください」と頼まれました。「日本では教科書以外は親が買っています。みなさんは、ただでもらっているかもしれないですが、大切に使いましょう」ということを伝えました。

★小さな子だけでなく大きな子も抱きついてきます。しかも5年生の男の子も。愛情表現の違いでしょうが、日本では知らない人に抱きつくことはないの、こういうストレートな愛情表現もいいなあと思いました。



サントス・デュモン
ブラジルでは、飛行機の父、飛行機王とも呼ばれるほど偉大な発明家。



⑧ 10月19日(金) 14:00~ HERMETO BOTELHO 学校訪問(二部制) ⇔ 芦原小学校



クラウジ・メイレ校長
(2年目)
・児童数 589人
(特別支援 9人)
・学級数 20学級
(午前10 午後10)
・教員数 36人

毎週月曜日 8時から1時間程度、校長・スパ2・オリ2の合計5人で会議をしています。教育局からのお知らせや子どもたちのことなど情報交換を行い、その週に行くことを話し合います。いじめ等があればその対応を考えます。

今年から、学校のプロジェクトとして、「CONECTADOS」を実施。スマホに依存しないで、「もっと親と子が一緒にいましょう！」と呼びかけています。活動内容は、①外部から無償で講師を呼んで、毎週月曜日に講演会を11回行った。②独立記念のパレード(市内19校参加)でこのことを訴えた。③パレードの日に子どもと先生たちで保護者にシールと説明のパンフレットを配った。始めたばかりなのでまだ成果は出ていませんが、きっとよくなっていくと思います。親が一生懸命になれば、子どもも一生懸命になるはずですよ。



★「素晴らしい取り組みなので、市内の全学校で取り組めばいいと思います」と伝えると、「反対する学校もあります。教育局がこの活動に賛成し、市の取組としてやってくれるといいです」と仰っていました。

★校長経験後、教育局、supervisor を経て、2回目の校長に。前回と何が変わったかを尋ねました。「1回目は自分のことしか考えられなかった。先生たちにも命令や叱責が多かった。今は、一緒に考えたり



「カンカン」のダンスだそうです。みんなお化粧していたので、大人みたいに色っぽかったです。→→



穏やかに話し合ったりするようしている。今の方がうまくいっていると思う。」

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！ フラジル通信 No.13 2018.11.1 学校教育課 鳥山徳子

写真を撮りたかったら、「Posso tirar (uma) foto?」



⑨ 10月22日(月) ROTARY ARENITO 学校訪問(全日制) ⇔ 松葉小学校



ここは、とても貧しい地域です。親が麻薬で逮捕されたり施設に連れていかれたりして、20~30%の子が、おじさんやおばさん、祖父母に育てられています。でも、とてもいい子たちばかりです。給食やおやつ、フルーツも食べられるので、みんな休まず学校に来ます。まずは、親が学校に来ることが大切なので、子どもたちには、親に渡す手紙は、連絡帳に貼って、家の人にサインをもらうようにしています。

ソランジェ校長
(2年目)
・児童数 192人
(特別支援 13人)
・学級数 7学級
・教員数 15人
(午後は大学生)
・IDEB 7.0

★どの学校でも「日本の先生は大切にされていますか？」という質問が出ます。今回は、「先生は大切にされています。先生方も子どもたちをととても大切にしています。ブラジルも同じですね。でも、みなさんは先生のことを『TIA (おばさん)』と呼びますが、日本では『先生』と呼びます。どうして、みなさんは TIA と呼ぶのですか？」と質問を返し



市から支給されている連絡帳



ました。「難しい」と答える子が多いが一人の子が、「幼稚園の頃から TIA と呼んでいるから」と言ったので、「みなさんもこれからは『先生』と呼ぶといいかもかもしれませんね。」と伝えた。校長先生も担任の先生も頷いていました。親しみを込めて呼んでいるかもしれませんが、先生方も、本当は昔のように「先生」と呼ばれていたと思っているという話をどの学校でも聞きました。

⑩ 10月22日(月) GETULIO VARGAS 学校訪問(二部制) ⇔ 向山小学校



自分が赴任する前は、「子どもたちはダメな子です」という先生が多かったのですが、自分が赴任し、同じグループの職員を入れたおかげで、今は「この子どもたちはできる」という考えのもと、みんなでがんばっています。校長をはじめ、supervisor も orientador もどんどん教室に入っていきようにしています。また、地域が貧しいので、子どもたち自身が「自分は貧乏だからできない」と思っています。「あなたたちも他の 18 校と同じです。だからがんばりましょう。」と伝え続けています。だんだんよくなってきています。これからも、先生方と力を合わせてがんばっていこうと思います。

エリアーネ校長
(4年目)
・児童数 320人
(特別支援13人)
・学級数 13学級
(午前7 午後6)
・教員数 21人
・IDEB 7.4

★エリアーネ校長(右写真)は、平成20年度の研修員で、岩西小で活動を行われた先生です。歓迎の言葉(左上写真)も、校長先生のお母様が準備してくださったそうです。
★5年生の教室でガムを噛んでいる子が数人いました。校長先生が、私が教室に入る際に、その子どもたちに注意をしてガムを捨てさせていましたが、訪問10校目にして初めてのことでした。残念ながら5年生だけは話を聞く態度もあまりよくなかったため、生徒指導は、なかなか難しい地域だろうと思いました。



先生と幼稚園の子が披露してくれたダンス

